

## ヴァイオリニストTAIRIKUの戯言

〔第12回〕

## 弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

## タブー無き世界

師匠達の時代は、コンサートでMCをすることは御法度でした。

MCの経験の無い僕たちがコンサートデビューしたのが10年前。少しでもクラシックを身近に感じてもらうために、MCも頑張りましたが、今はそれが当たり前になりました。演奏が上手ければ需要があった時代は終わってしまい、今や「芸術家」より「サービス業」のほうがしつくりきます。

巨匠の時代は、チャルダシユですら「あんな下世話なもの弾いちやダメだよ」と演奏を許されていませんでした。確かにハイフェッツやオイストラフのチャルダシユは聴いたことがあります。

タブーというか、暗黙のルールが多かったのがクラシック。

僕が昔受けたレッスンでも「直立不動で持ち方はこう、ニコニコして弾いてはいけない」とお約束ごとを沢山言われました。

アート・オブ・ヴァイオリンという、巨匠が沢山出てくる素晴らしいDVDがあります。パールマンやヒラリー・ハーンやギトリスがナビゲートしてい

ます。厳格な規範の中で直立不動で演奏する巨匠達。しかし自由がないのか、と言うと全くそんなことはありません。きっちり弾くのが窮屈だなぁと思っていた学生時代に、「規律があるから自由がある」と言われ深く納得したのを憶えています。

旧ソビエト、スターリンの時代に空襲のサイレンが鳴り響く中、チャイコフスキーのコンチェルトの演奏をやめなかつたオイストラフとオーケストラ。そして誰一人動かなかつた聴衆。厳しい時代を生きた人にしか出ない音の深みや重さがあります。

きつとタブーの有無や流行り廃りとは、その時代の「概念」にすぎない。人々の言語やモラルや思考が時代によって違うのと一緒です。残念ながら今は、芸術性が高い「評価される時代ではありません。禁忌から解放されたというよりは、今や誰も「タブー」を気にしなくなった、そんな時代になっていくような気がします。

TSUKEMENのチャレンジすることは全て、昔ならば禁忌だらけ。楽器編成や、基本は生音で演奏する点などはクラシックですが、クラシックの

人には「ポップス」と言われます。ポップスの人からは「クラシック」と言われて、CDショップには「イーजीリスニング」に置いてありました。CDのチャートはクラシックチャートに入っています。最近はオリジナル曲オリのアルバムを出していて、Apple Musicで見たら「J-POP」にカテゴライズされていました。時代に振り回されず、自分達が届けたい音楽をしつかり弾いて、一人でも多くの人に喜んでいただけたら最高です。しっかりと「TSUKEMEN」というジャンルを、確立していきたいと思えます。



## profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。  
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストリーダー。  
2010年キングレコードからメジャーデビュー。  
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。